

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2022年度	開講キャンパス		都城キャンパス	開設学科		子ども教育学科		
科目名称	子ども教育プレゼミ					授業形態	講義		
科目コード	750113	単位数	2単位	配当学年	2年	実務経験教員		アクティブ ラーニング	○
担当教員名	遠藤 晃								
授業概要	<p>本科目の目的は、これから大学で研究活動を行うために必要となる基本的なプロセスを実践することにある。2年次末には、各自の問題意識に基づくゼミ選択及び配属が行われ、3年次からは各担当教員が各々の専門領域について演習を行うゼミ形式となる（「子ども教育ゼミⅠ・Ⅱ」）。以後の2年間は原則同じ教員のもとで指導を受けることとなるため、「研究とは何か」「自分は何を研究したいのか」を見出さないままゼミ選択がなされると、『自分のやりたいことと違った』『ゼミに馴染めない』とモチベーションが低下し、期待される研究成果が得られないまま不本意な大学生活を過ごす事態に陥り易い。</p> <p>「自分の研究領域を決める」ためには、興味・関心を焦点化しながら情報収集・整理を行い、問題意識を醸成すること、問題意識に基づく文献・資料・論文を読解することや、既存の研究成果を整理しながら思索を重ねて「問い」を生成することが必要である。本科目はそれら研究過程を他ゼミ生との協働を通して段階的に実践することで、「研究とは何か」「自分は何を研究したいのか」見出すことを目的とする。研究領域を明確にし、各研究室の特色と照らし合わせた上でのゼミ選択を目指すことで、これから研究成果を積み上げていくためのレディネス（＝準備状態）を形成していく。</p>								
関連する科目	子ども教育入門ゼミを前年度に、子ども教育ゼミⅠを次年度に履修すること。								
授業の進め方 と方法	<p>学習技術（5種類）ごとに、解説・課題提示1回、指導1回の全2回構成（×5）となる。</p> <p>【前半】学習技術に関する解説及び課題提示を「講義形式（受講生全員）」で行う。毎回、授業に関するミニレポート（感想、質問、確認問題等）の提出を求める。</p> <p>【後半】学習技術および研究プロセスに関する課題の評価及び指導を「演習形式（ゼミ単位）」で行う。毎回、前半（解説・課題提示）及び前時で出された課題の提出を求める。</p>								
授業計画 【第1回】	<p>学生生活（1） オリエンテーション、学生生活指導、履修指導</p>								
授業計画 【第2回】	<p>学生生活（2） 「自分の研究領域及び所属研究室を決める」プロセスの全体像とそのために必要な研究能力をつかむ。</p>								
授業計画 【第3回】	<p>読解（1）解説・課題提示 読解の意義について理解し、専門的な文献（論文レベル）の読解スキルについて理解する。</p>								
授業計画 【第4回】	<p>読解（2）実践指導 課題となった文献を要約し発表する。指導をもとに問題点と改善点を把握する。</p>								
授業計画 【第5回】	<p>文章表現（1）解説・課題提示 アカデミック・ライティングの基本スキルをふまえ、仮説検証や事象の証明方法を理解する。</p>								
授業計画 【第6回】	<p>文章表現（2）実践指導 課題となったレポート作成について指導を受け、課題と改善の見通しをつかむ。</p>								
授業計画 【第7回】	<p>学生生活（3） 学生生活指導、履修指導</p>								
授業計画 【第8回】	<p>情報収集（1）解説・課題提示 情報を収集し整理して分析する方法について理解する。</p>								
授業計画 【第9回】	<p>情報収集（2）実践指導 課題となった情報収集・分析について指導を受け、課題と改善への見通しをつかむ。</p>								
授業計画 【第10回】	卒業研究中間発表会への参加								
授業計画 【第11回】	<p>プレゼンテーション（1）解説・課題提示 興味・関心に基づく文献・資料検索、プレゼンテーションの方法を理解する。</p>								

授業計画 【第12回】	プレゼンテーション (2) 実践指導 課題となったプレゼンテーション作成について指導を受け、課題と改善の見通しをつかむ。
授業計画 【第13回】	ディスカッション (1) 解説・課題提示 ディスカッションの生産性・創造性を高める基本スキルを理解する。
授業計画 【第14回】	ディスカッション (2) 実践指導 課題となったディスカッションについて指導を受け、課題と改善への見通しをつかむ。
授業計画 【第15回】	学びの総括 2年次の学びについてゼミ生と交流しながら、次年時に向けた課題について議論する。
授業の到達目標	1. 「大学で研究活動を行う」ために必要となる基本的なプロセス及び研究能力について理解する。 2. 「大学で研究活動を行う」ために必要となる基本的な研究能力を習得する。 3. 各自の興味・関心から問題意識を醸成し、研究領域及び3年次以降のゼミの選択に向けた見通しをつかむ。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外の学修 【予習】	(解説前) 事前に配布された資料を熟読し、学修内容の概略を把握すること。 (実践指導前) 提示された課題に取り組み、指導を受けるために必要となる資料作成を行うこと。
授業時間外の学修 【復習】	(解説後) 学修内容を振り返り整理するとともに、それらを用いて問題意識の醸成に努めること。 (実践指導後) 指導内容の要点を整理しながら、課題に再度取り組むこと。
課題に対する フィードバック	提出課題は、授業時間に評価・解説を行う。
評価方法・基準	(オリエンテーション等) 提出物及び受講態度から判断する (30点) (解説) 出席時のミニレポートや提出物から判断する (各回4点×5回=20点) (実践指導) 課題の取り組みや受講態度、発表等から判断する (各回10点×5回=50点)
テキスト	必要に応じて毎回資料を配布する。
参考書	1. 白井利明・高橋一郎 編著「よくわかる卒論の書き方」 (ミネルヴァ書房、¥2500+税)
備考	

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2022年度	開講キャンパス		都城キャンパス	開設学科		子ども教育学科		
科目名称	子ども教育プレゼミ					授業形態	講義		
科目コード	750113	単位数	2単位	配当学年	2年	実務経験教員		アクティブ ラーニング	○
担当教員名	瀬戸口 裕二								
授業概要	<p>本科目の目的は、これから大学で研究活動を行うために必要となる基本的なプロセスを実践することにある。2年次末には、各自の問題意識に基づくゼミ選択及び配属が行われ、3年次からは各担当教員が各々の専門領域について演習を行うゼミ形式となる（「子ども教育ゼミⅠ・Ⅱ」）。以後の2年間は原則同じ教員のもとで指導を受けることとなるため、「研究とは何か」「自分は何を研究したいのか」を見出さないままゼミ選択がなされると、『自分のやりたいことと違った』『ゼミに馴染めない』とモチベーションが低下し、期待される研究成果が得られないまま不本意な大学生活を過ごす事態に陥り易い。</p> <p>「自分の研究領域を決める」ためには、興味・関心を焦点化しながら情報収集・整理を行い、問題意識を醸成すること、問題意識に基づく文献・資料・論文を読解することや、既存の研究成果を整理しながら思索を重ねて「問い」を生成することが必要である。本科目はそれら研究過程を他ゼミ生との協働を通して段階的に実践することで、「研究とは何か」「自分は何を研究したいのか」見出すことを目的とする。研究領域を明確にし、各研究室の特色と照らし合わせた上でのゼミ選択を目指すことで、これから研究成果を積み上げていくためのレディネス（＝準備状態）を形成していく。</p>								
関連する科目	子ども教育入門ゼミを前年度に、子ども教育ゼミⅠを次年度に履修すること。								
授業の進め方 と方法	<p>学習技術（5種類）ごとに、解説・課題提示1回、指導1回の全2回構成（×5）となる。</p> <p>【前半】学習技術に関する解説及び課題提示を「講義形式（受講生全員）」で行う。毎回、授業に関するミニレポート（感想、質問、確認問題等）の提出を求める。</p> <p>【後半】学習技術および研究プロセスに関する課題の評価及び指導を「演習形式（ゼミ単位）」で行う。毎回、前半（解説・課題提示）及び前時で出された課題の提出を求める。</p>								
授業計画 【第1回】	<p>学生生活（1） オリエンテーション、学生生活指導、履修指導</p>								
授業計画 【第2回】	<p>学生生活（2） 「自分の研究領域及び所属研究室を決める」プロセスの全体像とそのために必要な研究能力をつかむ。</p>								
授業計画 【第3回】	<p>読解（1）解説・課題提示 読解の意義について理解し、専門的な文献（論文レベル）の読解スキルについて理解する。</p>								
授業計画 【第4回】	<p>読解（2）実践指導 課題となった文献を要約し発表する。指導をもとに問題点と改善点を把握する。</p>								
授業計画 【第5回】	<p>文章表現（1）解説・課題提示 アカデミック・ライティングの基本スキルをふまえ、仮説検証や事象の証明方法を理解する。</p>								
授業計画 【第6回】	<p>文章表現（2）実践指導 課題となったレポート作成について指導を受け、課題と改善の見通しをつかむ。</p>								
授業計画 【第7回】	<p>学生生活（3） 学生生活指導、履修指導</p>								
授業計画 【第8回】	<p>情報収集（1）解説・課題提示 情報を収集し整理して分析する方法について理解する。</p>								
授業計画 【第9回】	<p>情報収集（2）実践指導 課題となった情報収集・分析について指導を受け、課題と改善への見通しをつかむ。</p>								
授業計画 【第10回】	卒業研究中間発表会への参加								
授業計画 【第11回】	<p>プレゼンテーション（1）解説・課題提示 興味・関心に基づく文献・資料検索、プレゼンテーションの方法を理解する。</p>								

授業計画 【第12回】	プレゼンテーション (2) 実践指導 課題となったプレゼンテーション作成について指導を受け、課題と改善の見通しをつかむ。
授業計画 【第13回】	ディスカッション (1) 解説・課題提示 ディスカッションの生産性・創造性を高める基本スキルを理解する。
授業計画 【第14回】	ディスカッション (2) 実践指導 課題となったディスカッションについて指導を受け、課題と改善への見通しをつかむ。
授業計画 【第15回】	学びの総括 2年次の学びについてゼミ生と交流しながら、次年時に向けた課題について議論する。
授業の到達目標	1. 「大学で研究活動を行う」ために必要となる基本的なプロセス及び研究能力について理解する。 2. 「大学で研究活動を行う」ために必要となる基本的な研究能力を習得する。 3. 各自の興味・関心から問題意識を醸成し、研究領域及び3年次以降のゼミの選択に向けた見通しをつかむ。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1) / 1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2) / 2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1) / 2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2) / 3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2) / 3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外の学修 【予習】	(解説前) 事前に配布された資料を熟読し、学修内容の概略を把握すること。 (実践指導前) 提示された課題に取り組み、指導を受けるために必要となる資料作成を行うこと。
授業時間外の学修 【復習】	(解説後) 学修内容を振り返り整理するとともに、それらを用いて問題意識の醸成に努めること。 (実践指導後) 指導内容の要点を整理しながら、課題に再度取り組むこと。
課題に対する フィードバック	提出課題は、授業時間に評価・解説を行う。
評価方法・基準	(オリエンテーション等) 提出物及び受講態度から判断する (30点) (解説) 出席時のミニレポートや提出物から判断する (各回4点×5回=20点) (実践指導) 課題の取り組みや受講態度、発表等から判断する (各回10点×5回=50点)
テキスト	必要に応じて毎回資料を配布する。
参考書	1. 白井利明・高橋一郎 編著「よくわかる卒論の書き方」 (ミネルヴァ書房、¥2500+税)
備考	

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2022年度	開講キャンパス		都城キャンパス	開設学科		子ども教育学科		
科目名称	子ども教育プレゼミ					授業形態	講義		
科目コード	750113	単位数	2単位	配当学年	2年	実務経験教員		アクティブ ラーニング	○
担当教員名	園田 博一								
授業概要	<p>本科目の目的は、これから大学で研究活動を行うために必要となる基本的なプロセスを実践することにある。2年次末には、各自の問題意識に基づくゼミ選択及び配属が行われ、3年次からは各担当教員が各々の専門領域について演習を行うゼミ形式となる（「子ども教育ゼミⅠ・Ⅱ」）。以後の2年間は原則同じ教員のもとで指導を受けることとなるため、「研究とは何か」「自分は何を研究したいのか」を見出さずそのままゼミ選択がなされると、『自分のやりたいことと違った』『ゼミに馴染めない』とモチベーションが低下し、期待される研究成果が得られないまま不本意な大学生活を過ごす事態に陥り易い。</p> <p>「自分の研究領域を決める」ためには、興味・関心を焦点化しながら情報収集・整理を行い、問題意識を醸成すること、問題意識に基づく文献・資料・論文を読解することや、既存の研究成果を整理しながら思索を重ねて「問い」を生成することが必要である。本科目はそれら研究過程を他ゼミ生との協働を通して段階的に実践することで、「研究とは何か」「自分は何を研究したいのか」見出すことを目的とする。研究領域を明確にし、各研究室の特色と照らし合わせた上でのゼミ選択を目指すことで、これから研究成果を積み上げていくためのレディネス（＝準備状態）を形成していく。</p>								
関連する科目	子ども教育入門ゼミを前年度に、子ども教育ゼミⅠを次年度に履修すること。								
授業の進め方 と方法	<p>学習技術（5種類）ごとに、解説・課題提示1回、指導1回の全2回構成（×5）となる。</p> <p>【前半】学習技術に関する解説及び課題提示を「講義形式（受講生全員）」で行う。毎回、授業に関するミニレポート（感想、質問、確認問題等）の提出を求める。</p> <p>【後半】学習技術および研究プロセスに関する課題の評価及び指導を「演習形式（ゼミ単位）」で行う。毎回、前半（解説・課題提示）及び前時で出された課題の提出を求める。</p>								
授業計画 【第1回】	<p>学生生活（1） オリエンテーション、学生生活指導、履修指導</p>								
授業計画 【第2回】	<p>学生生活（2） 「自分の研究領域及び所属研究室を決める」プロセスの全体像とそのために必要な研究能力をつかむ。</p>								
授業計画 【第3回】	<p>読解（1）解説・課題提示 読解の意義について理解し、専門的な文献（論文レベル）の読解スキルについて理解する。</p>								
授業計画 【第4回】	<p>読解（2）実践指導 課題となった文献を要約し発表する。指導をもとに問題点と改善点を把握する。</p>								
授業計画 【第5回】	<p>文章表現（1）解説・課題提示 アカデミック・ライティングの基本スキルをふまえ、仮説検証や事象の証明方法を理解する。</p>								
授業計画 【第6回】	<p>文章表現（2）実践指導 課題となったレポート作成について指導を受け、課題と改善の見通しをつかむ。</p>								
授業計画 【第7回】	<p>学生生活（3） 学生生活指導、履修指導</p>								
授業計画 【第8回】	<p>情報収集（1）解説・課題提示 情報を収集し整理して分析する方法について理解する。</p>								
授業計画 【第9回】	<p>情報収集（2）実践指導 課題となった情報収集・分析について指導を受け、課題と改善への見通しをつかむ。</p>								
授業計画 【第10回】	卒業研究中間発表会への参加								
授業計画 【第11回】	<p>プレゼンテーション（1）解説・課題提示 興味・関心に基づく文献・資料検索、プレゼンテーションの方法を理解する。</p>								

授業計画 【第12回】	プレゼンテーション (2) 実践指導 課題となったプレゼンテーション作成について指導を受け、課題と改善の見通しをつかむ。
授業計画 【第13回】	ディスカッション (1) 解説・課題提示 ディスカッションの生産性・創造性を高める基本スキルを理解する。
授業計画 【第14回】	ディスカッション (2) 実践指導 課題となったディスカッションについて指導を受け、課題と改善への見通しをつかむ。
授業計画 【第15回】	学びの総括 2年次の学びについてゼミ生と交流しながら、次年時に向けた課題について議論する。
授業の到達目標	1. 「大学で研究活動を行う」ために必要となる基本的なプロセス及び研究能力について理解する。 2. 「大学で研究活動を行う」ために必要となる基本的な研究能力を習得する。 3. 各自の興味・関心から問題意識を醸成し、研究領域及び3年次以降のゼミの選択に向けた見通しをつかむ。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外の学修 【予習】	(解説前) 事前に配布された資料を熟読し、学修内容の概略を把握すること。 (実践指導前) 提示された課題に取り組み、指導を受けるために必要となる資料作成を行うこと。
授業時間外の学修 【復習】	(解説後) 学修内容を振り返り整理するとともに、それらを用いて問題意識の醸成に努めること。 (実践指導後) 指導内容の要点を整理しながら、課題に再度取り組むこと。
課題に対する フィードバック	提出課題は、授業時間に評価・解説を行う。
評価方法・基準	(オリエンテーション等) 提出物及び受講態度から判断する (30点) (解説) 出席時のミニレポートや提出物から判断する (各回4点×5回=20点) (実践指導) 課題の取り組みや受講態度、発表等から判断する (各回10点×5回=50点)
テキスト	必要に応じて毎回資料を配布する。
参考書	1. 白井利明・高橋一郎 編著「よくわかる卒論の書き方」 (ミネルヴァ書房、¥2500+税)
備考	

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2022年度	開講キャンパス		都城キャンパス	開設学科		子ども教育学科		
科目名称	子ども教育プレゼミ					授業形態	講義		
科目コード	750113	単位数	2単位	配当学年	2年	実務経験教員		アクティブ ラーニング	○
担当教員名	早川 純子								
授業概要	<p>本科目の目的は、これから大学で研究活動を行うために必要となる基本的なプロセスを実践することにある。2年次末には、各自の問題意識に基づくゼミ選択及び配属が行われ、3年次からは各担当教員が各々の専門領域について演習を行うゼミ形式となる（「子ども教育ゼミⅠ・Ⅱ」）。以後の2年間は原則同じ教員のもとで指導を受けることとなるため、「研究とは何か」「自分は何を研究したいのか」を見出さないうままゼミ選択がなされると、『自分のやりたいことと違った』『ゼミに馴染めない』とモチベーションが低下し、期待される研究成果が得られないまま不本意な大学生活を過ごす事態に陥り易い。</p> <p>「自分の研究領域を決める」ためには、興味・関心を焦点化しながら情報収集・整理を行い、問題意識を醸成すること、問題意識に基づく文献・資料・論文を読解することや、既存の研究成果を整理しながら思索を重ねて「問い」を生成することが必要である。本科目はそれら研究過程を他ゼミ生との協働を通して段階的に実践することで、「研究とは何か」「自分は何を研究したいのか」見出すことを目的とする。研究領域を明確にし、各研究室の特色と照らし合わせた上でのゼミ選択を目指すことで、これから研究成果を積み上げていくためのレディネス（＝準備状態）を形成していく。</p>								
関連する科目	子ども教育入門ゼミを前年度に、子ども教育ゼミⅠを次年度に履修すること。								
授業の進め方 と方法	<p>学習技術（5種類）ごとに、解説・課題提示1回、指導1回の全2回構成（×5）となる。</p> <p>【前半】学習技術に関する解説及び課題提示を「講義形式（受講生全員）」で行う。毎回、授業に関するミニレポート（感想、質問、確認問題等）の提出を求める。</p> <p>【後半】学習技術および研究プロセスに関する課題の評価及び指導を「演習形式（ゼミ単位）」で行う。毎回、前半（解説・課題提示）及び前時で出された課題の提出を求める。</p>								
授業計画 【第1回】	<p>学生生活（1） オリエンテーション、学生生活指導、履修指導</p>								
授業計画 【第2回】	<p>学生生活（2） 「自分の研究領域及び所属研究室を決める」プロセスの全体像とそのために必要な研究能力をつかむ。</p>								
授業計画 【第3回】	<p>読解（1）解説・課題提示 読解の意義について理解し、専門的な文献（論文レベル）の読解スキルについて理解する。</p>								
授業計画 【第4回】	<p>読解（2）実践指導 課題となった文献を要約し発表する。指導をもとに問題点と改善点を把握する。</p>								
授業計画 【第5回】	<p>文章表現（1）解説・課題提示 アカデミック・ライティングの基本スキルをふまえ、仮説検証や事象の証明方法を理解する。</p>								
授業計画 【第6回】	<p>文章表現（2）実践指導 課題となったレポート作成について指導を受け、課題と改善の見通しをつかむ。</p>								
授業計画 【第7回】	<p>学生生活（3） 学生生活指導、履修指導</p>								
授業計画 【第8回】	<p>情報収集（1）解説・課題提示 情報を収集し整理して分析する方法について理解する。</p>								
授業計画 【第9回】	<p>情報収集（2）実践指導 課題となった情報収集・分析について指導を受け、課題と改善への見通しをつかむ。</p>								
授業計画 【第10回】	卒業研究中間発表会への参加								
授業計画 【第11回】	<p>プレゼンテーション（1）解説・課題提示 興味・関心に基づく文献・資料検索、プレゼンテーションの方法を理解する。</p>								

授業計画 【第12回】	プレゼンテーション (2) 実践指導 課題となったプレゼンテーション作成について指導を受け、課題と改善の見通しをつかむ。
授業計画 【第13回】	ディスカッション (1) 解説・課題提示 ディスカッションの生産性・創造性を高める基本スキルを理解する。
授業計画 【第14回】	ディスカッション (2) 実践指導 課題となったディスカッションについて指導を受け、課題と改善への見通しをつかむ。
授業計画 【第15回】	学びの総括 2年次の学びについてゼミ生と交流しながら、次年時に向けた課題について議論する。
授業の到達目標	1. 「大学で研究活動を行う」ために必要となる基本的なプロセス及び研究能力について理解する。 2. 「大学で研究活動を行う」ために必要となる基本的な研究能力を習得する。 3. 各自の興味・関心から問題意識を醸成し、研究領域及び3年次以降のゼミの選択に向けた見通しをつかむ。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外の学修 【予習】	(解説前) 事前に配布された資料を熟読し、学修内容の概略を把握すること。 (実践指導前) 提示された課題に取り組み、指導を受けるために必要となる資料作成を行うこと。
授業時間外の学修 【復習】	(解説後) 学修内容を振り返り整理するとともに、それらを用いて問題意識の醸成に努めること。 (実践指導後) 指導内容の要点を整理しながら、課題に再度取り組むこと。
課題に対する フィードバック	提出課題は、授業時間に評価・解説を行う。
評価方法・基準	(オリエンテーション等) 提出物及び受講態度から判断する (30点) (解説) 出席時のミニレポートや提出物から判断する (各回4点×5回=20点) (実践指導) 課題の取り組みや受講態度、発表等から判断する (各回10点×5回=50点)
テキスト	必要に応じて毎回資料を配布する。
参考書	1. 白井利明・高橋一郎 編著「よくわかる卒論の書き方」 (ミネルヴァ書房、¥2500+税)
備考	

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2022年度	開講キャンパス		都城キャンパス	開設学科		子ども教育学科		
科目名称	子ども教育プレゼミ					授業形態	講義		
科目コード	750113	単位数	2単位	配当学年	2年	実務経験教員		アクティブ ラーニング	○
担当教員名	宮内 孝								
授業概要	<p>本科目の目的は、これから大学で研究活動を行うために必要となる基本的なプロセスを実践することにある。2年次末には、各自の問題意識に基づくゼミ選択及び配属が行われ、3年次からは各担当教員が各々の専門領域について演習を行うゼミ形式となる（「子ども教育ゼミⅠ・Ⅱ」）。以後の2年間は原則同じ教員のもとで指導を受けることとなるため、「研究とは何か」「自分は何を研究したいのか」を見出さないままゼミ選択がなされると、『自分のやりたいことと違った』『ゼミに馴染めない』と動機付けが低下し、期待される研究成果が得られないまま不本意な大学生活を過ごす事態に陥り易い。</p> <p>「自分の研究領域を決める」ためには、興味・関心を焦点化しながら情報収集・整理を行い、問題意識を醸成すること、問題意識に基づく文献・資料・論文を読解することや、既存の研究成果を整理しながら思索を重ねて「問い」を生成することが必要である。本科目はそれら研究過程を他ゼミ生との協働を通して段階的に実践することで、「研究とは何か」「自分は何を研究したいのか」見出すことを目的とする。研究領域を明確にし、各研究室の特色と照らし合わせた上でのゼミ選択を目指すことで、これから研究成果を積み上げていくためのレディネス（＝準備状態）を形成していく。</p>								
関連する科目	子ども教育入門ゼミを前年度に、子ども教育ゼミⅠを次年度に履修すること。								
授業の進め方 と方法	<p>学習技術（5種類）ごとに、解説・課題提示1回、指導1回の全2回構成（×5）となる。</p> <p>【前半】学習技術に関する解説及び課題提示を「講義形式（受講生全員）」で行う。毎回、授業に関するミニレポート（感想、質問、確認問題等）の提出を求める。</p> <p>【後半】学習技術および研究プロセスに関する課題の評価及び指導を「演習形式（ゼミ単位）」で行う。毎回、前半（解説・課題提示）及び前時で出された課題の提出を求める。</p>								
授業計画 【第1回】	<p>学生生活（1） オリエンテーション、学生生活指導、履修指導</p>								
授業計画 【第2回】	<p>学生生活（2） 「自分の研究領域及び所属研究室を決める」プロセスの全体像とそのために必要な研究能力をつかむ。</p>								
授業計画 【第3回】	<p>読解（1）解説・課題提示 読解の意義について理解し、専門的な文献（論文レベル）の読解スキルについて理解する。</p>								
授業計画 【第4回】	<p>読解（2）実践指導 課題となった文献を要約し発表する。指導をもとに問題点と改善点を把握する。</p>								
授業計画 【第5回】	<p>文章表現（1）解説・課題提示 アカデミック・ライティングの基本スキルをふまえ、仮説検証や事象の証明方法を理解する。</p>								
授業計画 【第6回】	<p>文章表現（2）実践指導 課題となったレポート作成について指導を受け、課題と改善の見通しをつかむ。</p>								
授業計画 【第7回】	<p>学生生活（3） 学生生活指導、履修指導</p>								
授業計画 【第8回】	<p>情報収集（1）解説・課題提示 情報を収集し整理して分析する方法について理解する。</p>								
授業計画 【第9回】	<p>情報収集（2）実践指導 課題となった情報収集・分析について指導を受け、課題と改善への見通しをつかむ。</p>								
授業計画 【第10回】	卒業研究中間発表会への参加								
授業計画 【第11回】	<p>プレゼンテーション（1）解説・課題提示 興味・関心に基づく文献・資料検索、プレゼンテーションの方法を理解する。</p>								

授業計画 【第12回】	プレゼンテーション (2) 実践指導 課題となったプレゼンテーション作成について指導を受け、課題と改善の見通しをつかむ。
授業計画 【第13回】	ディスカッション (1) 解説・課題提示 ディスカッションの生産性・創造性を高める基本スキルを理解する。
授業計画 【第14回】	ディスカッション (2) 実践指導 課題となったディスカッションについて指導を受け、課題と改善への見通しをつかむ。
授業計画 【第15回】	学びの総括 2年次の学びについてゼミ生と交流しながら、次年時に向けた課題について議論する。
授業の到達目標	1. 「大学で研究活動を行う」ために必要となる基本的なプロセス及び研究能力について理解する。 2. 「大学で研究活動を行う」ために必要となる基本的な研究能力を習得する。 3. 各自の興味・関心から問題意識を醸成し、研究領域及び3年次以降のゼミの選択に向けた見通しをつかむ。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1) / 1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2) / 2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1) / 2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2) / 3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2) / 3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外の学修 【予習】	(解説前) 事前に配布された資料を熟読し、学修内容の概略を把握すること。 (実践指導前) 提示された課題に取り組み、指導を受けるために必要となる資料作成を行うこと。
授業時間外の学修 【復習】	(解説後) 学修内容を振り返り整理するとともに、それらを用いて問題意識の醸成に努めること。 (実践指導後) 指導内容の要点を整理しながら、課題に再度取り組むこと。
課題に対する フィードバック	提出課題は、授業時間に評価・解説を行う。
評価方法・基準	(オリエンテーション等) 提出物及び受講態度から判断する (30点) (解説) 出席時のミニレポートや提出物から判断する (各回4点×5回=20点) (実践指導) 課題の取り組みや受講態度、発表等から判断する (各回10点×5回=50点)
テキスト	必要に応じて毎回資料を配布する。
参考書	1. 白井利明・高橋一郎 編著「よくわかる卒論の書き方」 (ミネルヴァ書房、¥2500+税)
備考	

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2022年度	開講キャンパス		都城キャンパス	開設学科		子ども教育学科		
科目名称	子ども教育プレゼミ					授業形態	講義		
科目コード	750113	単位数	2単位	配当学年	2年	実務経験教員		アクティブ ラーニング	○
担当教員名	若宮 邦彦								
授業概要	<p>本科目の目的は、これから大学で研究活動を行うために必要となる基本的なプロセスを実践することにある。2年次末には、各自の問題意識に基づくゼミ選択及び配属が行われ、3年次からは各担当教員が各々の専門領域について演習を行うゼミ形式となる（「子ども教育ゼミⅠ・Ⅱ」）。以後の2年間は原則同じ教員のもとで指導を受けることとなるため、「研究とは何か」「自分は何を研究したいのか」を見出さないままゼミ選択がなされると、『自分のやりたいことと違った』『ゼミに馴染めない』と動機付けが低下し、期待される研究成果が得られないまま不本意な大学生活を過ごす事態に陥り易い。</p> <p>「自分の研究領域を決める」ためには、興味・関心を焦点化しながら情報収集・整理を行い、問題意識を醸成すること、問題意識に基づく文献・資料・論文を読解することや、既存の研究成果を整理しながら思索を重ねて「問い」を生成することが必要である。本科目はそれら研究過程を他ゼミ生との協働を通して段階的に実践することで、「研究とは何か」「自分は何を研究したいのか」見出すことを目的とする。研究領域を明確にし、各研究室の特色と照らし合わせた上でのゼミ選択を目指すことで、これから研究成果を積み上げていくためのレディネス（＝準備状態）を形成していく。</p>								
関連する科目	子ども教育入門ゼミを前年度に、子ども教育ゼミⅠを次年度に履修すること。								
授業の進め方 と方法	<p>学習技術（5種類）ごとに、解説・課題提示1回、指導1回の全2回構成（×5）となる。</p> <p>【前半】学習技術に関する解説及び課題提示を「講義形式（受講生全員）」で行う。毎回、授業に関するミニレポート（感想、質問、確認問題等）の提出を求める。</p> <p>【後半】学習技術および研究プロセスに関する課題の評価及び指導を「演習形式（ゼミ単位）」で行う。毎回、前半（解説・課題提示）及び前時で出された課題の提出を求める。</p>								
授業計画 【第1回】	<p>学生生活（1） オリエンテーション、学生生活指導、履修指導</p>								
授業計画 【第2回】	<p>学生生活（2） 「自分の研究領域及び所属研究室を決める」プロセスの全体像とそのために必要な研究能力をつかむ。</p>								
授業計画 【第3回】	<p>読解（1）解説・課題提示 読解の意義について理解し、専門的な文献（論文レベル）の読解スキルについて理解する。</p>								
授業計画 【第4回】	<p>読解（2）実践指導 課題となった文献を要約し発表する。指導をもとに問題点と改善点を把握する。</p>								
授業計画 【第5回】	<p>文章表現（1）解説・課題提示 アカデミック・ライティングの基本スキルをふまえ、仮説検証や事象の証明方法を理解する。</p>								
授業計画 【第6回】	<p>文章表現（2）実践指導 課題となったレポート作成について指導を受け、課題と改善の見通しをつかむ。</p>								
授業計画 【第7回】	<p>学生生活（3） 学生生活指導、履修指導</p>								
授業計画 【第8回】	<p>情報収集（1）解説・課題提示 情報を収集し整理して分析する方法について理解する。</p>								
授業計画 【第9回】	<p>情報収集（2）実践指導 課題となった情報収集・分析について指導を受け、課題と改善への見通しをつかむ。</p>								
授業計画 【第10回】	卒業研究中間発表会への参加								
授業計画 【第11回】	<p>プレゼンテーション（1）解説・課題提示 興味・関心に基づく文献・資料検索、プレゼンテーションの方法を理解する。</p>								

授業計画 【第12回】	プレゼンテーション (2) 実践指導 課題となったプレゼンテーション作成について指導を受け、課題と改善の見通しをつかむ。
授業計画 【第13回】	ディスカッション (1) 解説・課題提示 ディスカッションの生産性・創造性を高める基本スキルを理解する。
授業計画 【第14回】	ディスカッション (2) 実践指導 課題となったディスカッションについて指導を受け、課題と改善への見通しをつかむ。
授業計画 【第15回】	学びの総括 2年次の学びについてゼミ生と交流しながら、次年時に向けた課題について議論する。
授業の到達目標	1. 「大学で研究活動を行う」ために必要となる基本的なプロセス及び研究能力について理解する。 2. 「大学で研究活動を行う」ために必要となる基本的な研究能力を習得する。 3. 各自の興味・関心から問題意識を醸成し、研究領域及び3年次以降のゼミの選択に向けた見通しをつかむ。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外の学修 【予習】	(解説前) 事前に配布された資料を熟読し、学修内容の概略を把握すること。 (実践指導前) 提示された課題に取り組み、指導を受けるために必要となる資料作成を行うこと。
授業時間外の学修 【復習】	(解説後) 学修内容を振り返り整理するとともに、それらを用いて問題意識の醸成に努めること。 (実践指導後) 指導内容の要点を整理しながら、課題に再度取り組むこと。
課題に対する フィードバック	提出課題は、授業時間に評価・解説を行う。
評価方法・基準	(オリエンテーション等) 提出物及び受講態度から判断する (30点) (解説) 出席時のミニレポートや提出物から判断する (各回4点×5回=20点) (実践指導) 課題の取り組みや受講態度、発表等から判断する (各回10点×5回=50点)
テキスト	必要に応じて毎回資料を配布する。
参考書	1. 白井利明・高橋一郎 編著「よくわかる卒論の書き方」 (ミネルヴァ書房、¥2500+税)
備考	

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2022年度	開講キャンパス		都城キャンパス	開設学科		子ども教育学科		
科目名称	子ども教育プレゼミ					授業形態	講義		
科目コード	750113	単位数	2単位	配当学年	2年	実務経験教員		アクティブ ラーニング	○
担当教員名	酒井 喜八郎								
授業概要	<p>本科目の目的は、これから大学で研究活動を行うために必要となる基本的なプロセスを実践することにある。2年次末には、各自の問題意識に基づくゼミ選択及び配属が行われ、3年次からは各担当教員が各々の専門領域について演習を行うゼミ形式となる（「子ども教育ゼミⅠ・Ⅱ」）。以後の2年間は原則同じ教員のもとで指導を受けることとなるため、「研究とは何か」「自分は何を研究したいのか」を見出さないままゼミ選択がなされると、『自分のやりたいことと違った』『ゼミに馴染めない』とモチベーションが低下し、期待される研究成果が得られないまま不本意な大学生活を過ごす事態に陥り易い。</p> <p>「自分の研究領域を決める」ためには、興味・関心を焦点化しながら情報収集・整理を行い、問題意識を醸成すること、問題意識に基づく文献・資料・論文を読解することや、既存の研究成果を整理しながら思索を重ねて「問い」を生成することが必要である。本科目はそれら研究過程を他ゼミ生との協働を通して段階的に実践することで、「研究とは何か」「自分は何を研究したいのか」見出すことを目的とする。研究領域を明確にし、各研究室の特色と照らし合わせた上でのゼミ選択を目指すことで、これから研究成果を積み上げていくためのレディネス（＝準備状態）を形成していく。</p>								
関連する科目	子ども教育入門ゼミを前年度に、子ども教育ゼミⅠを次年度に履修すること。								
授業の進め方 と方法	<p>学習技術（5種類）ごとに、解説・課題提示1回、指導1回の全2回構成（×5）となる。</p> <p>【前半】学習技術に関する解説及び課題提示を「講義形式（受講生全員）」で行う。毎回、授業に関するミニレポート（感想、質問、確認問題等）の提出を求める。</p> <p>【後半】学習技術および研究プロセスに関する課題の評価及び指導を「演習形式（ゼミ単位）」で行う。毎回、前半（解説・課題提示）及び前時で出された課題の提出を求める。</p>								
授業計画 【第1回】	<p>学生生活（1） オリエンテーション、学生生活指導、履修指導</p>								
授業計画 【第2回】	<p>学生生活（2） 「自分の研究領域及び所属研究室を決める」プロセスの全体像とそのために必要な研究能力をつかむ。</p>								
授業計画 【第3回】	<p>読解（1）解説・課題提示 読解の意義について理解し、専門的な文献（論文レベル）の読解スキルについて理解する。</p>								
授業計画 【第4回】	<p>読解（2）実践指導 課題となった文献を要約し発表する。指導をもとに問題点と改善点を把握する。</p>								
授業計画 【第5回】	<p>文章表現（1）解説・課題提示 アカデミック・ライティングの基本スキルをふまえ、仮説検証や事象の証明方法を理解する。</p>								
授業計画 【第6回】	<p>文章表現（2）実践指導 課題となったレポート作成について指導を受け、課題と改善の見通しをつかむ。</p>								
授業計画 【第7回】	<p>学生生活（3） 学生生活指導、履修指導</p>								
授業計画 【第8回】	<p>情報収集（1）解説・課題提示 情報を収集し整理して分析する方法について理解する。</p>								
授業計画 【第9回】	<p>情報収集（2）実践指導 課題となった情報収集・分析について指導を受け、課題と改善への見通しをつかむ。</p>								
授業計画 【第10回】	卒業研究中間発表会への参加								
授業計画 【第11回】	<p>プレゼンテーション（1）解説・課題提示 興味・関心に基づく文献・資料検索、プレゼンテーションの方法を理解する。</p>								

授業計画 【第12回】	プレゼンテーション (2) 実践指導 課題となったプレゼンテーション作成について指導を受け、課題と改善の見通しをつかむ。
授業計画 【第13回】	ディスカッション (1) 解説・課題提示 ディスカッションの生産性・創造性を高める基本スキルを理解する。
授業計画 【第14回】	ディスカッション (2) 実践指導 課題となったディスカッションについて指導を受け、課題と改善への見通しをつかむ。
授業計画 【第15回】	学びの総括 2年次の学びについてゼミ生と交流しながら、次年時に向けた課題について議論する。
授業の到達目標	1. 「大学で研究活動を行う」ために必要となる基本的なプロセス及び研究能力について理解する。 2. 「大学で研究活動を行う」ために必要となる基本的な研究能力を習得する。 3. 各自の興味・関心から問題意識を醸成し、研究領域及び3年次以降のゼミの選択に向けた見通しをつかむ。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外の学修 【予習】	(解説前) 事前に配布された資料を熟読し、学修内容の概略を把握すること。 (実践指導前) 提示された課題に取り組み、指導を受けるために必要となる資料作成を行うこと。
授業時間外の学修 【復習】	(解説後) 学修内容を振り返り整理するとともに、それらを用いて問題意識の醸成に努めること。 (実践指導後) 指導内容の要点を整理しながら、課題に再度取り組むこと。
課題に対する フィードバック	提出課題は、授業時間に評価・解説を行う。
評価方法・基準	(オリエンテーション等) 提出物及び受講態度から判断する (30点) (解説) 出席時のミニレポートや提出物から判断する (各回4点×5回=20点) (実践指導) 課題の取り組みや受講態度、発表等から判断する (各回10点×5回=50点)
テキスト	必要に応じて毎回資料を配布する。
参考書	1. 白井利明・高橋一郎 編著「よくわかる卒論の書き方」 (ミネルヴァ書房、¥2500+税)
備考	

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2022年度	開講キャンパス		都城キャンパス	開設学科		子ども教育学科		
科目名称	子ども教育プレゼミ					授業形態	講義		
科目コード	750113	単位数	2単位	配当学年	2年	実務経験教員		アクティブ ラーニング	○
担当教員名	本田 和也								
授業概要	<p>本科目の目的は、これから大学で研究活動を行うために必要となる基本的なプロセスを実践することにある。2年次末には、各自の問題意識に基づくゼミ選択及び配属が行われ、3年次からは各担当教員が各々の専門領域について演習を行うゼミ形式となる（「子ども教育ゼミⅠ・Ⅱ」）。以後の2年間は原則同じ教員のもとで指導を受けることとなるため、「研究とは何か」「自分は何を研究したいのか」を見出さないままゼミ選択がなされると、『自分のやりたいことと違った』『ゼミに馴染めない』とモチベーションが低下し、期待される研究成果が得られないまま不本意な大学生活を過ごす事態に陥り易い。</p> <p>「自分の研究領域を決める」ためには、興味・関心を焦点化しながら情報収集・整理を行い、問題意識を醸成すること、問題意識に基づく文献・資料・論文を読解することや、既存の研究成果を整理しながら思索を重ねて「問い」を生成することが必要である。本科目はそれら研究過程を他ゼミ生との協働を通して段階的に実践することで、「研究とは何か」「自分は何を研究したいのか」見出すことを目的とする。研究領域を明確にし、各研究室の特色と照らし合わせた上でのゼミ選択を目指すことで、これから研究成果を積み上げていくためのレディネス（＝準備状態）を形成していく。</p>								
関連する科目	子ども教育入門ゼミを前年度に、子ども教育ゼミⅠを次年度に履修すること。								
授業の進め方 と方法	<p>学習技術（5種類）ごとに、解説・課題提示1回、指導1回の全2回構成（×5）となる。</p> <p>【前半】学習技術に関する解説及び課題提示を「講義形式（受講生全員）」で行う。毎回、授業に関するミニレポート（感想、質問、確認問題等）の提出を求める。</p> <p>【後半】学習技術および研究プロセスに関する課題の評価及び指導を「演習形式（ゼミ単位）」で行う。毎回、前半（解説・課題提示）及び前時で出された課題の提出を求める。</p>								
授業計画 【第1回】	<p>学生生活（1） オリエンテーション、学生生活指導、履修指導</p>								
授業計画 【第2回】	<p>学生生活（2） 「自分の研究領域及び所属研究室を決める」プロセスの全体像とそのために必要な研究能力をつかむ。</p>								
授業計画 【第3回】	<p>読解（1）解説・課題提示 読解の意義について理解し、専門的な文献（論文レベル）の読解スキルについて理解する。</p>								
授業計画 【第4回】	<p>読解（2）実践指導 課題となった文献を要約し発表する。指導をもとに問題点と改善点を把握する。</p>								
授業計画 【第5回】	<p>文章表現（1）解説・課題提示 アカデミック・ライティングの基本スキルをふまえ、仮説検証や事象の証明方法を理解する。</p>								
授業計画 【第6回】	<p>文章表現（2）実践指導 課題となったレポート作成について指導を受け、課題と改善の見通しをつかむ。</p>								
授業計画 【第7回】	<p>学生生活（3） 学生生活指導、履修指導</p>								
授業計画 【第8回】	<p>情報収集（1）解説・課題提示 情報を収集し整理して分析する方法について理解する。</p>								
授業計画 【第9回】	<p>情報収集（2）実践指導 課題となった情報収集・分析について指導を受け、課題と改善への見通しをつかむ。</p>								
授業計画 【第10回】	卒業研究中間発表会への参加								
授業計画 【第11回】	<p>プレゼンテーション（1）解説・課題提示 興味・関心に基づく文献・資料検索、プレゼンテーションの方法を理解する。</p>								

授業計画 【第12回】	プレゼンテーション (2) 実践指導 課題となったプレゼンテーション作成について指導を受け、課題と改善の見通しをつかむ。
授業計画 【第13回】	ディスカッション (1) 解説・課題提示 ディスカッションの生産性・創造性を高める基本スキルを理解する。
授業計画 【第14回】	ディスカッション (2) 実践指導 課題となったディスカッションについて指導を受け、課題と改善への見通しをつかむ。
授業計画 【第15回】	学びの総括 2年次の学びについてゼミ生と交流しながら、次年時に向けた課題について議論する。
授業の到達目標	1. 「大学で研究活動を行う」ために必要となる基本的なプロセス及び研究能力について理解する。 2. 「大学で研究活動を行う」ために必要となる基本的な研究能力を習得する。 3. 各自の興味・関心から問題意識を醸成し、研究領域及び3年次以降のゼミの選択に向けた見通しをつかむ。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1) / 1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2) / 2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1) / 2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2) / 3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2) / 3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外の学修 【予習】	(解説前) 事前に配布された資料を熟読し、学修内容の概略を把握すること。 (実践指導前) 提示された課題に取り組み、指導を受けるために必要となる資料作成を行うこと。
授業時間外の学修 【復習】	(解説後) 学修内容を振り返り整理するとともに、それらを用いて問題意識の醸成に努めること。 (実践指導後) 指導内容の要点を整理しながら、課題に再度取り組むこと。
課題に対する フィードバック	提出課題は、授業時間に評価・解説を行う。
評価方法・基準	(オリエンテーション等) 提出物及び受講態度から判断する (30点) (解説) 出席時のミニレポートや提出物から判断する (各回4点×5回=20点) (実践指導) 課題の取り組みや受講態度、発表等から判断する (各回10点×5回=50点)
テキスト	必要に応じて毎回資料を配布する。
参考書	1. 白井利明・高橋一郎 編著「よくわかる卒論の書き方」 (ミネルヴァ書房、¥2500+税)
備考	

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2022年度	開講キャンパス		都城キャンパス	開設学科		子ども教育学科		
科目名称	子ども教育プレゼミ					授業形態	講義		
科目コード	750113	単位数	2単位	配当学年	2年	実務経験教員		アクティブ ラーニング	○
担当教員名	福富 隆志								
授業概要	<p>本科目の目的は、これから大学で研究活動を行うために必要となる基本的なプロセスを実践することにある。2年次末には、各自の問題意識に基づくゼミ選択及び配属が行われ、3年次からは各担当教員が各々の専門領域について演習を行うゼミ形式となる（「子ども教育ゼミⅠ・Ⅱ」）。以後の2年間は原則同じ教員のもとで指導を受けることとなるため、「研究とは何か」「自分は何を研究したいのか」を見出さずそのままゼミ選択がなされると、『自分のやりたいことと違った』『ゼミに馴染めない』とモチベーションが低下し、期待される研究成果が得られないまま不本意な大学生活を過ごす事態に陥り易い。</p> <p>「自分の研究領域を決める」ためには、興味・関心を焦点化しながら情報収集・整理を行い、問題意識を醸成すること、問題意識に基づく文献・資料・論文を読解することや、既存の研究成果を整理しながら思索を重ねて「問い」を生成することが必要である。本科目はそれら研究過程を他ゼミ生との協働を通して段階的に実践することで、「研究とは何か」「自分は何を研究したいのか」見出すことを目的とする。研究領域を明確にし、各研究室の特色と照らし合わせた上でのゼミ選択を目指すことで、これから研究成果を積み上げていくためのレディネス（＝準備状態）を形成していく。</p>								
関連する科目	子ども教育入門ゼミを前年度に、子ども教育ゼミⅠを次年度に履修すること。								
授業の進め方 と方法	<p>学習技術（5種類）ごとに、解説・課題提示1回、指導1回の全2回構成（×5）となる。</p> <p>【前半】学習技術に関する解説及び課題提示を「講義形式（受講生全員）」で行う。毎回、授業に関するミニレポート（感想、質問、確認問題等）の提出を求める。</p> <p>【後半】学習技術および研究プロセスに関する課題の評価及び指導を「演習形式（ゼミ単位）」で行う。毎回、前半（解説・課題提示）及び前時で出された課題の提出を求める。</p>								
授業計画 【第1回】	<p>学生生活（1） オリエンテーション、学生生活指導、履修指導</p>								
授業計画 【第2回】	<p>学生生活（2） 「自分の研究領域及び所属研究室を決める」プロセスの全体像とそのために必要な研究能力をつかむ。</p>								
授業計画 【第3回】	<p>読解（1）解説・課題提示 読解の意義について理解し、専門的な文献（論文レベル）の読解スキルについて理解する。</p>								
授業計画 【第4回】	<p>読解（2）実践指導 課題となった文献を要約し発表する。指導をもとに問題点と改善点を把握する。</p>								
授業計画 【第5回】	<p>文章表現（1）解説・課題提示 アカデミック・ライティングの基本スキルをふまえ、仮説検証や事象の証明方法を理解する。</p>								
授業計画 【第6回】	<p>文章表現（2）実践指導 課題となったレポート作成について指導を受け、課題と改善の見通しをつかむ。</p>								
授業計画 【第7回】	<p>学生生活（3） 学生生活指導、履修指導</p>								
授業計画 【第8回】	<p>情報収集（1）解説・課題提示 情報を収集し整理して分析する方法について理解する。</p>								
授業計画 【第9回】	<p>情報収集（2）実践指導 課題となった情報収集・分析について指導を受け、課題と改善への見通しをつかむ。</p>								
授業計画 【第10回】	卒業研究中間発表会への参加								
授業計画 【第11回】	<p>プレゼンテーション（1）解説・課題提示 興味・関心に基づく文献・資料検索、プレゼンテーションの方法を理解する。</p>								

授業計画 【第12回】	プレゼンテーション (2) 実践指導 課題となったプレゼンテーション作成について指導を受け、課題と改善の見通しをつかむ。
授業計画 【第13回】	ディスカッション (1) 解説・課題提示 ディスカッションの生産性・創造性を高める基本スキルを理解する。
授業計画 【第14回】	ディスカッション (2) 実践指導 課題となったディスカッションについて指導を受け、課題と改善への見通しをつかむ。
授業計画 【第15回】	学びの総括 2年次の学びについてゼミ生と交流しながら、次年時に向けた課題について議論する。
授業の到達目標	1. 「大学で研究活動を行う」ために必要となる基本的なプロセス及び研究能力について理解する。 2. 「大学で研究活動を行う」ために必要となる基本的な研究能力を習得する。 3. 各自の興味・関心から問題意識を醸成し、研究領域及び3年次以降のゼミの選択に向けた見通しをつかむ。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1) / 1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2) / 2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1) / 2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2) / 3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2) / 3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外の学修 【予習】	(解説前) 事前に配布された資料を熟読し、学修内容の概略を把握すること。 (実践指導前) 提示された課題に取り組み、指導を受けるために必要となる資料作成を行うこと。
授業時間外の学修 【復習】	(解説後) 学修内容を振り返り整理するとともに、それらを用いて問題意識の醸成に努めること。 (実践指導後) 指導内容の要点を整理しながら、課題に再度取り組むこと。
課題に対する フィードバック	提出課題は、授業時間に評価・解説を行う。
評価方法・基準	(オリエンテーション等) 提出物及び受講態度から判断する (30点) (解説) 出席時のミニレポートや提出物から判断する (各回4点×5回=20点) (実践指導) 課題の取り組みや受講態度、発表等から判断する (各回10点×5回=50点)
テキスト	必要に応じて毎回資料を配布する。
参考書	1. 白井利明・高橋一郎 編著「よくわかる卒論の書き方」 (ミネルヴァ書房、¥2500+税)
備考	

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2022年度	開講キャンパス		都城キャンパス	開設学科		子ども教育学科		
科目名称	子ども教育プレゼミ					授業形態	講義		
科目コード	750113	単位数	2単位	配当学年	2年	実務経験教員		アクティブ ラーニング	○
担当教員名	藤本 朋美								
授業概要	<p>本科目の目的は、これから大学で研究活動を行うために必要となる基本的なプロセスを実践することにある。2年次末には、各自の問題意識に基づくゼミ選択及び配属が行われ、3年次からは各担当教員が各々の専門領域について演習を行うゼミ形式となる（「子ども教育ゼミⅠ・Ⅱ」）。以後の2年間は原則同じ教員のもとで指導を受けることとなるため、「研究とは何か」「自分は何を研究したいのか」を見出さないままゼミ選択がなされると、『自分のやりたいことと違った』『ゼミに馴染めない』と動機付けが低下し、期待される研究成果が得られないまま不本意な大学生活を過ごす事態に陥り易い。</p> <p>「自分の研究領域を決める」ためには、興味・関心を焦点化しながら情報収集・整理を行い、問題意識を醸成すること、問題意識に基づく文献・資料・論文を読解することや、既存の研究成果を整理しながら思索を重ねて「問い」を生成することが必要である。本科目はそれら研究過程を他ゼミ生との協働を通して段階的に実践することで、「研究とは何か」「自分は何を研究したいのか」見出すことを目的とする。研究領域を明確にし、各研究室の特色と照らし合わせた上でのゼミ選択を目指すことで、これから研究成果を積み上げていくためのレディネス（＝準備状態）を形成していく。</p>								
関連する科目	子ども教育入門ゼミを前年度に、子ども教育ゼミⅠを次年度に履修すること。								
授業の進め方 と方法	<p>学習技術（5種類）ごとに、解説・課題提示1回、指導1回の全2回構成（×5）となる。</p> <p>【前半】学習技術に関する解説及び課題提示を「講義形式（受講生全員）」で行う。毎回、授業に関するミニレポート（感想、質問、確認問題等）の提出を求める。</p> <p>【後半】学習技術および研究プロセスに関する課題の評価及び指導を「演習形式（ゼミ単位）」で行う。毎回、前半（解説・課題提示）及び前時で出された課題の提出を求める。</p>								
授業計画 【第1回】	<p>学生生活（1） オリエンテーション、学生生活指導、履修指導</p>								
授業計画 【第2回】	<p>学生生活（2） 「自分の研究領域及び所属研究室を決める」プロセスの全体像とそのために必要な研究能力をつかむ。</p>								
授業計画 【第3回】	<p>読解（1）解説・課題提示 読解の意義について理解し、専門的な文献（論文レベル）の読解スキルについて理解する。</p>								
授業計画 【第4回】	<p>読解（2）実践指導 課題となった文献を要約し発表する。指導をもとに問題点と改善点を把握する。</p>								
授業計画 【第5回】	<p>文章表現（1）解説・課題提示 アカデミック・ライティングの基本スキルをふまえ、仮説検証や事象の証明方法を理解する。</p>								
授業計画 【第6回】	<p>文章表現（2）実践指導 課題となったレポート作成について指導を受け、課題と改善の見通しをつかむ。</p>								
授業計画 【第7回】	<p>学生生活（3） 学生生活指導、履修指導</p>								
授業計画 【第8回】	<p>情報収集（1）解説・課題提示 情報を収集し整理して分析する方法について理解する。</p>								
授業計画 【第9回】	<p>情報収集（2）実践指導 課題となった情報収集・分析について指導を受け、課題と改善への見通しをつかむ。</p>								
授業計画 【第10回】	卒業研究中間発表会への参加								
授業計画 【第11回】	<p>プレゼンテーション（1）解説・課題提示 興味・関心に基づく文献・資料検索、プレゼンテーションの方法を理解する。</p>								

授業計画 【第12回】	プレゼンテーション (2) 実践指導 課題となったプレゼンテーション作成について指導を受け、課題と改善の見通しをつかむ。
授業計画 【第13回】	ディスカッション (1) 解説・課題提示 ディスカッションの生産性・創造性を高める基本スキルを理解する。
授業計画 【第14回】	ディスカッション (2) 実践指導 課題となったディスカッションについて指導を受け、課題と改善への見通しをつかむ。
授業計画 【第15回】	学びの総括 2年次の学びについてゼミ生と交流しながら、次年時に向けた課題について議論する。
授業の到達目標	1. 「大学で研究活動を行う」ために必要となる基本的なプロセス及び研究能力について理解する。 2. 「大学で研究活動を行う」ために必要となる基本的な研究能力を習得する。 3. 各自の興味・関心から問題意識を醸成し、研究領域及び3年次以降のゼミの選択に向けた見通しをつかむ。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外の学修 【予習】	(解説前) 事前に配布された資料を熟読し、学修内容の概略を把握すること。 (実践指導前) 提示された課題に取り組み、指導を受けるために必要となる資料作成を行うこと。
授業時間外の学修 【復習】	(解説後) 学修内容を振り返り整理するとともに、それらを用いて問題意識の醸成に努めること。 (実践指導後) 指導内容の要点を整理しながら、課題に再度取り組むこと。
課題に対する フィードバック	提出課題は、授業時間に評価・解説を行う。
評価方法・基準	(オリエンテーション等) 提出物及び受講態度から判断する (30点) (解説) 出席時のミニレポートや提出物から判断する (各回4点×5回=20点) (実践指導) 課題の取り組みや受講態度、発表等から判断する (各回10点×5回=50点)
テキスト	必要に応じて毎回資料を配布する。
参考書	1. 白井利明・高橋一郎 編著「よくわかる卒論の書き方」 (ミネルヴァ書房、¥2500+税)
備考	

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2022年度	開講キャンパス		都城キャンパス	開設学科		子ども教育学科		
科目名称	子ども教育プレゼミ					授業形態	講義		
科目コード	750113	単位数	2単位	配当学年	2年	実務経験教員		アクティブ ラーニング	○
担当教員名	野村 宗嗣								
授業概要	<p>本科目の目的は、これから大学で研究活動を行うために必要となる基本的なプロセスを実践することにある。2年次末には、各自の問題意識に基づくゼミ選択及び配属が行われ、3年次からは各担当教員が各々の専門領域について演習を行うゼミ形式となる（「子ども教育ゼミⅠ・Ⅱ」）。以後の2年間は原則同じ教員のもとで指導を受けることとなるため、「研究とは何か」「自分は何を研究したいのか」を見出さないままゼミ選択がなされると、『自分のやりたいことと違った』『ゼミに馴染めない』とモチベーションが低下し、期待される研究成果が得られないまま不本意な大学生活を過ごす事態に陥り易い。</p> <p>「自分の研究領域を決める」ためには、興味・関心を焦点化しながら情報収集・整理を行い、問題意識を醸成すること、問題意識に基づく文献・資料・論文を読解することや、既存の研究成果を整理しながら思索を重ねて「問い」を生成することが必要である。本科目はそれら研究過程を他ゼミ生との協働を通して段階的に実践することで、「研究とは何か」「自分は何を研究したいのか」見出すことを目的とする。研究領域を明確にし、各研究室の特色と照らし合わせた上でのゼミ選択を目指すことで、これから研究成果を積み上げていくためのレディネス（＝準備状態）を形成していく。</p>								
関連する科目	子ども教育入門ゼミを前年度に、子ども教育ゼミⅠを次年度に履修すること。								
授業の進め方 と方法	<p>学習技術（5種類）ごとに、解説・課題提示1回、指導1回の全2回構成（×5）となる。</p> <p>【前半】学習技術に関する解説及び課題提示を「講義形式（受講生全員）」で行う。毎回、授業に関するミニレポート（感想、質問、確認問題等）の提出を求める。</p> <p>【後半】学習技術および研究プロセスに関する課題の評価及び指導を「演習形式（ゼミ単位）」で行う。毎回、前半（解説・課題提示）及び前時で出された課題の提出を求める。</p>								
授業計画 【第1回】	<p>学生生活（1） オリエンテーション、学生生活指導、履修指導</p>								
授業計画 【第2回】	<p>学生生活（2） 「自分の研究領域及び所属研究室を決める」プロセスの全体像とそのために必要な研究能力をつかむ。</p>								
授業計画 【第3回】	<p>読解（1）解説・課題提示 読解の意義について理解し、専門的な文献（論文レベル）の読解スキルについて理解する。</p>								
授業計画 【第4回】	<p>読解（2）実践指導 課題となった文献を要約し発表する。指導をもとに問題点と改善点を把握する。</p>								
授業計画 【第5回】	<p>文章表現（1）解説・課題提示 アカデミック・ライティングの基本スキルをふまえ、仮説検証や事象の証明方法を理解する。</p>								
授業計画 【第6回】	<p>文章表現（2）実践指導 課題となったレポート作成について指導を受け、課題と改善の見通しをつかむ。</p>								
授業計画 【第7回】	<p>学生生活（3） 学生生活指導、履修指導</p>								
授業計画 【第8回】	<p>情報収集（1）解説・課題提示 情報を収集し整理して分析する方法について理解する。</p>								
授業計画 【第9回】	<p>情報収集（2）実践指導 課題となった情報収集・分析について指導を受け、課題と改善への見通しをつかむ。</p>								
授業計画 【第10回】	卒業研究中間発表会への参加								
授業計画 【第11回】	<p>プレゼンテーション（1）解説・課題提示 興味・関心に基づく文献・資料検索、プレゼンテーションの方法を理解する。</p>								

授業計画 【第12回】	プレゼンテーション (2) 実践指導 課題となったプレゼンテーション作成について指導を受け、課題と改善の見通しをつかむ。
授業計画 【第13回】	ディスカッション (1) 解説・課題提示 ディスカッションの生産性・創造性を高める基本スキルを理解する。
授業計画 【第14回】	ディスカッション (2) 実践指導 課題となったディスカッションについて指導を受け、課題と改善への見通しをつかむ。
授業計画 【第15回】	学びの総括 2年次の学びについてゼミ生と交流しながら、次年時に向けた課題について議論する。
授業の到達目標	1. 「大学で研究活動を行う」ために必要となる基本的なプロセス及び研究能力について理解する。 2. 「大学で研究活動を行う」ために必要となる基本的な研究能力を習得する。 3. 各自の興味・関心から問題意識を醸成し、研究領域及び3年次以降のゼミの選択に向けた見通しをつかむ。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1) / 1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2) / 2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1) / 2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2) / 3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2) / 3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外の学修 【予習】	(解説前) 事前に配布された資料を熟読し、学修内容の概略を把握すること。 (実践指導前) 提示された課題に取り組み、指導を受けるために必要となる資料作成を行うこと。
授業時間外の学修 【復習】	(解説後) 学修内容を振り返り整理するとともに、それらを用いて問題意識の醸成に努めること。 (実践指導後) 指導内容の要点を整理しながら、課題に再度取り組むこと。
課題に対する フィードバック	提出課題は、授業時間に評価・解説を行う。
評価方法・基準	(オリエンテーション等) 提出物及び受講態度から判断する (30点) (解説) 出席時のミニレポートや提出物から判断する (各回4点×5回=20点) (実践指導) 課題の取り組みや受講態度、発表等から判断する (各回10点×5回=50点)
テキスト	必要に応じて毎回資料を配布する。
参考書	1. 白井利明・高橋一郎 編著「よくわかる卒論の書き方」 (ミネルヴァ書房、¥2500+税)
備考	

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2022年度	開講キャンパス		都城キャンパス	開設学科		子ども教育学科		
科目名称	子ども教育プレゼミ					授業形態	講義		
科目コード	750113	単位数	2単位	配当学年	2年	実務経験教員		アクティブ ラーニング	○
担当教員名	山田 裕司								
授業概要	<p>本科目の目的は、これから大学で研究活動を行うために必要となる基本的なプロセスを実践することにある。2年次末には、各自の問題意識に基づくゼミ選択及び配属が行われ、3年次からは各担当教員が各々の専門領域について演習を行うゼミ形式となる（「子ども教育ゼミⅠ・Ⅱ」）。以後の2年間は原則同じ教員のもとで指導を受けることとなるため、「研究とは何か」「自分は何を研究したいのか」を見出さないままゼミ選択がなされると、『自分のやりたいことと違った』『ゼミに馴染めない』とモチベーションが低下し、期待される研究成果が得られないまま不本意な大学生活を過ごす事態に陥り易い。</p> <p>「自分の研究領域を決める」ためには、興味・関心を焦点化しながら情報収集・整理を行い、問題意識を醸成すること、問題意識に基づく文献・資料・論文を読解することや、既存の研究成果を整理しながら思索を重ねて「問い」を生成することが必要である。本科目はそれら研究過程を他ゼミ生との協働を通して段階的に実践することで、「研究とは何か」「自分は何を研究したいのか」見出すことを目的とする。研究領域を明確にし、各研究室の特色と照らし合わせた上でのゼミ選択を目指すことで、これから研究成果を積み上げていくためのレディネス（＝準備状態）を形成していく。</p>								
関連する科目	子ども教育入門ゼミを前年度に、子ども教育ゼミⅠを次年度に履修すること。								
授業の進め方 と方法	<p>学習技術（5種類）ごとに、解説・課題提示1回、指導1回の全2回構成（×5）となる。</p> <p>【前半】学習技術に関する解説及び課題提示を「講義形式（受講生全員）」で行う。毎回、授業に関するミニレポート（感想、質問、確認問題等）の提出を求める。</p> <p>【後半】学習技術および研究プロセスに関する課題の評価及び指導を「演習形式（ゼミ単位）」で行う。毎回、前半（解説・課題提示）及び前時で出された課題の提出を求める。</p>								
授業計画 【第1回】	<p>学生生活（1） オリエンテーション、学生生活指導、履修指導</p>								
授業計画 【第2回】	<p>学生生活（2） 「自分の研究領域及び所属研究室を決める」プロセスの全体像とそのために必要な研究能力をつかむ。</p>								
授業計画 【第3回】	<p>読解（1）解説・課題提示 読解の意義について理解し、専門的な文献（論文レベル）の読解スキルについて理解する。</p>								
授業計画 【第4回】	<p>読解（2）実践指導 課題となった文献を要約し発表する。指導をもとに問題点と改善点を把握する。</p>								
授業計画 【第5回】	<p>文章表現（1）解説・課題提示 アカデミック・ライティングの基本スキルをふまえ、仮説検証や事象の証明方法を理解する。</p>								
授業計画 【第6回】	<p>文章表現（2）実践指導 課題となったレポート作成について指導を受け、課題と改善の見通しをつかむ。</p>								
授業計画 【第7回】	<p>学生生活（3） 学生生活指導、履修指導</p>								
授業計画 【第8回】	<p>情報収集（1）解説・課題提示 情報を収集し整理して分析する方法について理解する。</p>								
授業計画 【第9回】	<p>情報収集（2）実践指導 課題となった情報収集・分析について指導を受け、課題と改善への見通しをつかむ。</p>								
授業計画 【第10回】	卒業研究中間発表会への参加								
授業計画 【第11回】	<p>プレゼンテーション（1）解説・課題提示 興味・関心に基づく文献・資料検索、プレゼンテーションの方法を理解する。</p>								

授業計画 【第12回】	プレゼンテーション (2) 実践指導 課題となったプレゼンテーション作成について指導を受け、課題と改善の見通しをつかむ。
授業計画 【第13回】	ディスカッション (1) 解説・課題提示 ディスカッションの生産性・創造性を高める基本スキルを理解する。
授業計画 【第14回】	ディスカッション (2) 実践指導 課題となったディスカッションについて指導を受け、課題と改善への見通しをつかむ。
授業計画 【第15回】	学びの総括 2年次の学びについてゼミ生と交流しながら、次年時に向けた課題について議論する。
授業の到達目標	1. 「大学で研究活動を行う」ために必要となる基本的なプロセス及び研究能力について理解する。 2. 「大学で研究活動を行う」ために必要となる基本的な研究能力を習得する。 3. 各自の興味・関心から問題意識を醸成し、研究領域及び3年次以降のゼミの選択に向けた見通しをつかむ。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外の学修 【予習】	(解説前) 事前に配布された資料を熟読し、学修内容の概略を把握すること。 (実践指導前) 提示された課題に取り組み、指導を受けるために必要となる資料作成を行うこと。
授業時間外の学修 【復習】	(解説後) 学修内容を振り返り整理するとともに、それらを用いて問題意識の醸成に努めること。 (実践指導後) 指導内容の要点を整理しながら、課題に再度取り組むこと。
課題に対する フィードバック	提出課題は、授業時間に評価・解説を行う。
評価方法・基準	(オリエンテーション等) 提出物及び受講態度から判断する (30点) (解説) 出席時のミニレポートや提出物から判断する (各回4点×5回=20点) (実践指導) 課題の取り組みや受講態度、発表等から判断する (各回10点×5回=50点)
テキスト	必要に応じて毎回資料を配布する。
参考書	1. 白井利明・高橋一郎 編著「よくわかる卒論の書き方」 (ミネルヴァ書房、¥2500+税)
備考	